

第1回介護保険運営協議会での質問事項

質問1 要介護認定率が国よりも低い理由

- ・認定率は後期高齢化率に比例する。
- ・愛知県の認定率・後期高齢化率は国よりも低く、47都道府県中45位。
- ・碧南市の認定率・後期高齢化率ともに、愛知県平均よりも低い。

	認定率	後期高齢化率
国	19.0%	15.4%
愛知県	17.4%	13.6% (45位/47都道府県)
碧南市	16.7%	12.6%

(認定率 R5. 3. 31 後期高齢化率 R5. 1. 1 時点)

質問2 過去3年間のコロナ禍の影響

(介護サービスの実績)

- ・デイサービス(通所介護)2年度、3年度と前年度比減。
- ・デイケア(通所リハビリ)やその他サービスでコロナの顕著な影響はなし。

(要介護認定者アンケート調査)

- ・コロナ流行後に介護サービスの利用頻度に変化はあったか
変わらない : 74.7%
増えた : 6.1%
減った : 5.6%
- ・コロナ流行後に身体の様子に変化はあったか
変わらない : 58.1%
良くなった : 8.8%
悪くなった : 10.6%

(健康とくらしの調査)

3年前の集計結果との比較

- ・フレイルありの割合 → 改善 (5.8%減少)
- ・運動機能低下者割合 → 悪化 (1.4%増加)
- ・1年間転倒あり割合 → 悪化 (2.1%増加)
- ・物忘れの多い者、認知機能低下者割合 → ほぼ増減無し
- ・うつ割合 → 悪化 (4.9%増加)

社会参加の状況(前回調査と同一対象者を紐付けした分析)

- ・約80%が参加率を維持、9%が増加、12%が減少
- ・趣味の会・通いの場は全年齢層で減少割合が上回る

以上の結果より、コロナ禍の影響として考えられること



- 身体機能、認知機能への明らかな影響は確認されない
- うつ割合の増加から、精神面への影響あり
- 趣味の会、通いの場などの参加率の減少

質問3 健康とくらしの調査における男女の差

- ・フレイルあり割合：全体で大きな差異なし
 - ・運動機能低下者割合、1年間の転倒あり割合：全年齢で女性の機能低下割合が高い
 - ・物忘れ、認知機能低下者割合、要介護リスク：大きな差異なし
 - ・うつ割合：80歳までは差異なし
- (社会参加)
- ・スポーツの会、趣味の会、学習教養スクール、通いの場：全年齢を通して女性の参加率が高い
 - ・特技や経験を他者に伝える活動：若干男性の参加率が高い

※《参考》健康とくらしの調査20項目男女別集計より

質問4 筋トレルームの事業検証

- 実施時期：利用開始時（全員）、6カ月経過毎（希望者）
- 実施内容：基本チェックリスト、主観的健康観、握力、開眼片足立ち、5メートル歩行速度、タイムアップ&ゴー
- 実施人数：初回386人、2回目69人、3回目以降29人
- 改善が見られた項目：タイムアップ&ゴー
- 下肢の筋力、立位バランス、歩行能力の改善